

昭和五十四年三月招集

第一回館山市議定会定例会會議錄第六号

館山市議會



# 目次

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 日時                      | 二 |
| 場所                      | 二 |
| 出席議員                    | 二 |
| 欠席議員                    | 二 |
| 出席説明員                   | 二 |
| 議事日程                    | 二 |
| 開議                      | 三 |
| 議案の配付                   | 三 |
| 議案第八号乃至議案第十四号、議案第二十三号   | 三 |
| 総務委員会委員長報告              | 四 |
| 渡辺軍治郎君の討論               | 五 |
| 辻田 実君の討論                | 六 |
| 採決                      | 七 |
| 議案第十五号乃至議案第十九号、議案第二十四号  | 八 |
| 文教民生委員会委員長報告            | 八 |
| 渡辺軍治郎君の討論               | 〇 |
| 辻田 実君の討論                | 二 |
| 採決                      | 四 |
| 議案第二十号乃至議案第二十二号、議案第二十五号 | 五 |
| 建設経済委員会委員長報告            | 六 |
| 採決                      | 七 |
| 議案第一号乃至議案第七号            | 七 |
| 予算審査特別委員会委員長報告          | 七 |

|                     |    |
|---------------------|----|
| 渡辺軍治郎君の討論           | 二一 |
| 辻田 実君の討論            | 二三 |
| 採決                  | 二七 |
| 議案第二十六号             | 二七 |
| 内容説明                | 二七 |
| 委員会付託の省略            | 二八 |
| 採決                  | 二八 |
| 日程追加・請願書の撤回         | 二八 |
| 日程追加・本間昭二君の議員辞職について | 二八 |
| 閉会                  | 二九 |
| 本日の会議に付した事件         | 二九 |

一、昭和五十四年三月二十三日（金曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 三十名

|       |         |       |         |
|-------|---------|-------|---------|
| 一 番   | 吉 田 勇治郎 | 二 番   | 伊 藤 幸太郎 |
| 三 番   | 穴 戸 寿 夫 | 四 番   | 押 元 稔   |
| 五 番   | 黒 川 平 治 | 六 番   | 鈴 木 正 義 |
| 七 番   | 本 間 昭 二 | 八 番   | 松 下 正 己 |
| 九 番   | 鈴 木 稔   | 一〇番   | 流 山 源次郎 |
| 一 番   | 近 藤 好 雄 | 一 二 番 | 栗 原 一 雄 |
| 一 三 番 | 林 豊     | 一 四 番 | 石 井 輝 久 |
| 一 五 番 | 辻 田 実   | 一 六 番 | 安 西 益 男 |
| 一 七 番 | 石 井 武 敏 | 一 八 番 | 渡 辺 軍治郎 |
| 一 九 番 | 渡 辺 昭 夫 | 二 〇 番 | 和 田 一 郎 |
| 二 一 番 | 田 中 祿 郎 | 二 二 番 | 五 十 嵐 昇 |
| 二 三 番 | 菊 井 敏 博 | 二 四 番 | 西 村 真 次 |
| 二 五 番 | 伊 賀 多 朗 | 二 六 番 | 藤 田 益 治 |
| 二 七 番 | 遠 山 ヨネ子 | 二 八 番 | 石 井 正   |
| 二 九 番 | 望 月 照 正 | 三 〇 番 | 山 口 康   |

一、欠席議員 なし

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第六号）

昭和五十四年三月二十三日午前十時開議

日程第一

議案第 八号

館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 九号

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十号

館山市職員等の旅費に関する条例等の一部を改正する条例の制定について

議案第 十一号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十二号

館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十三号

新たに生じた土地の確認について

議案第 十四号

新たに生じた土地を市の区域内に編入することについて

議案第 二十三号

昭和五十三年度館山市一般会計補正予算（第六号）

議案第 十五号

館山市立中学校設置条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十六号

館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十七号

館山市児童家庭保育に関する条例を廃止する条例の制定について

議案第 十八号

館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

日程第二

議案第 十九号 正する条例の制定について  
館山市公害防止条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十四号 昭和五十三年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第二号)

議案第二十号 館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第三  
議案第二十一号 館山市水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十二号 市道路線の認定について

議案第二十五号 昭和五十三年度館山市水道事業特別会計補正予算(第三号)

議案第一号 昭和五十三年度館山市一般会計予算

議案第二号 昭和五十三年度館山市国民健康保険特別会計予算

議案第三号 昭和五十三年度館山市と畜場特別会計予算

議案第四号 昭和五十三年度館山市国民宿舎特別会計予算

議案第五号 昭和五十三年度館山市ユースホステル特別会計予算

議案第六号 昭和五十三年度館山市学童災害共済事業特別会計予算

議案第 七号 昭和五十三年度館山市水道事業特別会計予算

日程第五 議案第二十六号 館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について

開 議 午前十時十八分開議

○議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員数三十名、これより第一回市議会定例会第六日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

### 議案の配付

○議長(吉田勇治郎君) 議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れはございませんか。――配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

### 議案の上程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第一、議案第八号乃至議案第十四号及び議案第二十三号の各議案を一括して議題といたします。

議案第八号 館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について

議案第九号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十号 館山市職員等の旅費に関する条例等の一部を改

正する条例の制定について

議案第十一号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十二号 館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十三号 新九に生じた土地の確認について

議案第十四号 新九に生じた土地を市の区域内に編入することについて

議案第二十三号 昭和五十三年度館山市一般会計補正予算（第六号）

### 総務委員会委員長報告

○議長（吉田勇治郎君） ただいま議題となりました各議案は、去る三月九日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長栗原一雄君。

（総務委員会委員長栗原一雄君登壇）

○総務委員会委員長（栗原一雄君） 去る三月九日開会の本会議において総務委員会に付託されました八議案につき、十三日委員会を招集し、議案の内容審査を行いました。その経過及び結果について御報告申し上げます。

まず、初めに議案の審査結果について申し上げます。

議案第八号については賛成多数をもって、議案第九号乃至第十

四号及び第二十三号の議案については全員一致をもって、それぞれ原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、審査の経過について主なる事項を申し上げます。

議案第八号については、市が条例で設置する附属機関の委員に議会の議員として構成員となることは違法ではないが適当でないとの行政実例もあり、法の精神に基づき改正するもので、今後においては議員としてではなく知識経験者として協力を求めることの当局の考えが質疑を通して説明されました。

特に、委員より、時宜を得た提案で今後附属機関の意義が十分発揮されるような方向で検討されたいとの要望があり、また従来議員が委員として果たしてきた役割は大きく、従来どおりで支障もなく、改正の法的根拠も明確でないとの反対意見もありました。

次に、議案第九号につきましては、県下十万未満の市における状況を考へて、二カ年計画により昨年に引き続き改正するものであるとの説明がありましたが、特に従来同額であった農業委員会会長と教育委員会委員長に千円の差が出たことについて再検討をすべきではないかと正しましたところ、次回改正するときに考慮するとの回答がありました。

また、監査及び各委員会の長は、従前と異なり議会に出席している点等考慮すべきではないかとの質問に對しまして、今後考えるとの答弁がありました。

次に、議案第十号につきましては、県下の状況等を考へ改正するものであるとの説明がありましたが、宿泊料については職員の士気の向上、出張の効果を考へて、実情に即した方向で検討されるよう要望いたしました。

次に、議案第十二号につきましては、分団長以上の報酬を改正しない理由について説明を求めましたところ、昨年の改定にあたり部長以下の上げ幅が少ないとの議会の意見もあり、検討の結果今回の提案になったとの説明がありました。消防体制の充実という意味からさらに今後の前向きな検討を要望いたしました。

次に、議案第二十三号につきましては、公債費中繰り上げ償還について、これに充当する財源の説明を求めましたところ、おおよそ市税で一億一千九百万、地方交付税で一億九千万、自動車取得税交付金八百万、国有提供施設等所在市町村助成金七百七十万、市債の増額による一般財源の残、人件費六千六百万円の減等を見込んだ旨の説明がありました。

以上、本委員会に付託されました案件について審査の概要を御報告申し述べましたが、清場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。総務委員会の報告を終ります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で委員長報告を終ります。

ただいまの委員長報告に対する御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

質疑を終結いたします。

## 討

## 論

○議長（吉田勇治郎君） これより討論に入ります。

通告がありますので、順次発言を許します。

一八番渡辺軍治郎君。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一八番（渡辺軍治郎君） 私は議案第八号と議案第二十三号につ

いて反対の討論を行います。

まず、議案第八号館山市附屬機関設置条例の一部を改正する条例の制定についてですが、説明では、「議決機関と諮問機関の機能を明確にするため委員の構成並びに定数について検討を加え、円滑な行政の執行を期するため」に改正するものだという説明がありました。が、附屬機関が市長の諮問機関であり、議決機関でないことは最初から明確になっていることであります。また円滑な行政の執行を期するためと言っていますが、円滑な行政の執行ができなかった実例がないのにそのおそれがあるなどと答えています。改正の根拠がわかりません。むしろ人事構成で改めなければならぬのは、委員の構成が市長サイドで行われている点にあります。委員の選定は民主的で公正に行うよう要求し、議案第八号に反対するものであります。

次に、議案第二十三号昭和五十三年度館山市一般会計補正予算に反対する討論を行います。

年度末補正予算は調整的なものですが、公債費四億五千九百九十七万八千円の繰り上げ償還が特徴になっています。説明では五十一年度繰上償還九件の償還ということで、利子負担の軽減を図ることについては一応評価できますが、一挙に四億五千万円も償還することについては問題があると思います。市長は財政にゆとりができたからといっていますが、地方財政は依然として困難な状況で起償への依存度を強めているのが現状であります。このような中で一挙に多額の償還を行うことは市民に負担を転嫁するもので賛成することはできません。

また、県道改良舗装工事及び館山港修築工事負担金六百九十四

万二千円については、地方財政法第九条に定められた「地方公共団体又は地方公共団体の機関の事務を行うために要する経費については、当該地方公共団体が全額これを負担する。」という原則、また同法第二十七条「都道府県の行う土木その他の建設事業でその区域内の市町村を利するものについては、都道府県は、当該建設事業による受益の限度において、市町村に対して経費の一部を負担させることができる。」と規定されていますが、県の行う事業で市町村を利さないものなど一つもありません。したがって、特に利益という点からみれば、市外や県外の利用が年々増加し、一般的公共性が強まる中で、館山市だけが特に利益を受けているという状況は少なくなっています。この観点から地方財政を圧迫する県道や港の負担金を見直し、廃止するよう要求し、議案第二十三号五十三年度補正予算に反対するものであります。

○議長（吉田勇治郎君） 次、一五番議員辻田 実君。

（一五番議員辻田 実君登壇）

○一五番（辻田 実君） ただいまの委員長報告中、議案第八号館山市附屬機関設置条例の一部を改正する条例の制定についての反対をいたしたいと思います。

ただいま一八番議員からも反対討論がございましたけれども、この議案は、議案説明にも書いてございますように、「議決機関と諮問機関の権能を明確にするため」であり、このことによって円滑な行政の執行を図るというふうにされておるわけでございます。

このことは、結論的に言いかえれば、市議会議員を附屬機関の中から削除するということであり、そしてこれにかわって知識経

験者というふうにしたということでございます。知識経験者の中に市議会議員を含むということについては当然なことであるわけでございますけれども、こうした改正案であり、すべての附屬機関の中から従来議員として明確にされておったものが削除される、こういう議案であるわけでございます。

ただいま委員長報告の中にも指摘されておりましたが、法の精神に照らして好ましくない、こういうことが指摘されておるわけでございまして、この点についてはもう少しこの法の精神について理解を深めていたいただきたいと思うのでございます。

この三権分立の法の精神というのは、一七四八年にフランスのモンテスキューが「法の精神」という著作の中において明らかにしたものでございまして、この三権分立はその後の一七七五年のアメリカ合衆国の独立の精神にされたということがいわれておるわけでございます。さらには、その後の一七八九年のフランス革命の精神ということが歴史的にも、また中学、高校の社会科でも明らかにされておるわけでございます。このことが法の精神であるろうというふうに思うわけでございます。しかしながら、この法の精神というのは、当時封建的専制政治から議決権、司法権、これを独立させることによって専制政治を排除するというこの法の精神であり、フランス革命の人権宣言、さらにはアメリカの独立宣言においてもこうしたことが明確にされておるわけでございます。

そういう中において、従来館山市は附屬機関において議員を多く登用し、そして議員の意見も十分にくみ入れながら対処してきただけでございます。今回、こうした中において突如として議員



を削除するということは、市長が議案説明の中に明らかにしておりますように行政の円滑な運営を期するため、こういうことであるわけでございます。

モンテスキューの法の精神は施行者——今日でいう市長、この行政が一方的にならないために、立法権、司法権の強化を外部に与え、そして行政のバランスをとるといのが法の精神でございます。こういう観点から立ってまいりますと、今回の場合には議員が附屬機関にすることがあつたかも知れませんが、行政の円滑な運営を妨げるかのごとく理解されるわけでございます。

そういう面については、市議会議員は今日の法律の中において自治法第九十六条の各項においていろいろと議員の任務と役割が明記されておるわけでございますけれども、今日改正するこの附屬機関の任務と役割はほとんどこの自治法の九十六条の各項に抵触し、または内容的にかなり類似したものが附屬機関の目的になつてゐるわけでございます。しかも、この附屬機関の内容については調査、審議というものが主たる任務になっておりまして、このことは地方自治法の第九十九条三項の議会の調査権並びに審査権に抵触するおそれがあるものでございます。

委員長報告の中においては「この問題は法律に触れる問題ではないけれども」、こういうことでございますけれども、しかしながら法律的に触れるものは特にございませぬけれども、従来館山市がこうした意味において施行してきたものを、行政の円滑な運営という形の中をもって市長権限の中においてこれを改正するということについては、いわゆるモンテスキューのいう法の精神に反するものであつて、三権分立の精神はもっと根源的に理解し

ていただかなければ私はないというふうに考へてゐるわけでございます。

今日の地方自治体は、市長並びに市議会議員も直接公選制によつて市民から選ばれた代表であるわけでございます。こうした中においては市民の声を代表し、そして議会運営、さらには行政執行にはかゝるのが当然なことであるわけでございまして、こうした意味におきまして議員は市民の代表、そして百九条におきましてこの議会の調査権、審査権について荷やかすような懸念がもたれるわけでございまして、今後の館山市政の運営の中において行政府がこのように議会議員を避ける、議会議員をこうした機関から排除していくということがあるならば、これは眞の議会制民主主義、さらには市民のための市政、という民主政治の根本に触れる状態がもし出される危惧もみられるわけでございまして、こうした意味においては、この附屬機関設置の条例については十分再検討をしていただいて、この議会と市長とそして行政府の運営について再検討をしていただくことを要望いたしまして、反対討論といたす次第でございますので、よろしく願ひたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で通告者による討論を終ります。

通告をしない議員で討論はございませんか。——討論なしと認めます。よつて以上で討論を終結いたします。

採

決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。  
採決は分括して行います。

まず、議案第八号館山市附屬機関設置条例の一部を改正する条例の制定についてを起立により採決いたします。

本案についての委員長報告は原案可決であります。本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(吉田勇治郎君) 起立多数であります。よって議案第八号館山市附屬機関設置条例の一部を改正する条例の制定については原案どおり可決されました。

次いで、議案第九号乃至議案第十四号の各議案を一括して採決いたします。

議案第九号乃至議案第十四号についての委員長の報告は原案可決であります。各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって議案第九号乃至議案第十四号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第二十三号昭和五十三年度館山市一般会計補正予算を起立により採決いたします。

議案第二十三号についての委員長の報告は原案可決であります。議案第二十三号を委員長の報告どおり可決するに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(吉田勇治郎君) 起立多数であります。よって議案第二十三号昭和五十三年度館山市一般会計補正予算は原案どおり可決さ

れました。

議案の上程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第二、議案第十五号乃至議案第十九号及び議案第二十四号の各議案を一括して議題といたします。

議案第十五号 館山市立中学校設置条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十六号 館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十七号 館山市児童家庭保育に関する条例を廃止する条例の制定について

議案第十八号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十九号 館山市公害防止条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十四号 昭和五十三年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第二号)

文教民生委員会委員長報告

○議長(吉田勇治郎君) ただいま議題となりました各議案は、去る三月九日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

(文教民生委員会委員長近藤好雄君登壇)

〇文教民生委員会委員長（近藤好雄君） 去る三月九日開会の本会議において文教民生委員会に付託されました六議案につきまして三月十六日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

まず、審査の結果について申し上げます。

議案第十五号乃至議案第十八号の四議案につきましては賛成多数をもって、議案第十九号及び議案第二十四号の二議案につきましては全員一致をもちまして、それぞれ原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、各議案についての審査過程におきます主なる点につきまして申し上げます。

議案第十五号につきましては、本会議においてかなりの論議が尽くされたところでありますが、昭和四十一年の統合問題審議委員会の答申についての現時点での考え、第三中学校完成の見通し並びに統合についての地区要望への対処について質疑が行われました。これら諸点に關しまして、当局から先の答申の精神を尊重したいとの姿勢と五十四年度末には完成させるよう努力したい旨が示されました。

また、各地区の要望の要点であります通学問題については、スクールバスの運行、遠距離通学者助成についての考えが述べられ、六キロ以内通学者との兼ね合いを考慮しつつ、負担軽減を考え、さらには通学用バスの既設路線の変更についての努力をするなど、五十四年度において地区の要望を煮詰めていきたい旨が述べられました。この点については委員会として積極的かつ十分に検討されることを要望いたしました。

なお、適正規模化は問題なしとするも地区民の合意を得てない

とし、本案に対する反対意見もありました。

議案第十六号につきましては、体育館の今後の運営管理について質疑がなされ、当局より授業日は二中優先使用とし、夜間、土曜午後および日曜日は管理指導員を設置し、社会体育に充てたいとの説明があり、市民利用との競合については調整可能との見通しをもつが、今後の運営の中でさらに考えていきたいとの答弁がありました。

また、利用者のための進入路の新設、その表示、駐車場の確保や生徒指導を兼ねての管理指導員の常駐についての要留意見に対しては、今後検討するとの考えが示されました。

そのほか、利用料金について他市との比較説明もありましたが、特殊器具等を除き、徴収すべきではないとの意見もありました。

議案第十七号につきましては、現条例による現況と県の要綱への切りかえについて述べたところ、対象者は現在委託者十二名、受託者十一名であり、受託者への報償金は保育料の軽減に充てられておる状況であるという実態から、この際県の助成要綱による保護者への増額助成に切りかえることが適当としての条例廃止であり、今後受託者と委託者間に問題の生じないよう十分配慮したいとの答弁がなされました。

また、条例廃止により保育料について歯どめがなくなり、引き上げを招く結果となるのではないかとこの意見もありましたが、この点については市の交付要綱の中で考慮し、措置したいとの意向が示されました。

議案第十八号につきましては、すべての権利の賦与との関連で強制加入は不平等との意見もありましたが、条例で定めてある外

国人については国保の被保険者とする事になっており、県の指導もあり、字句修正をし、条例整備をするものであるとの説明がありました。

また、助産費、葬祭費についても増額すべきとの意見もありましたが、安房郡市で相決しこのように改正したが、なるべく実勢に近づけたい旨の説明がありました。

議案第二十四号につきましては、例年本算定時において減額補正が出るが、予算編成のあり方について三カ年平均による算定が実情に合っていないのかとの質問に対し、一年間の推計がつかみにくいのが実態であり、国、県の指導のもとの方法で積算し、運用してゐるとの状況説明がなされました。

以上、審査の概要を御報告申し上げた次第でございますが、満場の御賛同をお願いいたしまして、ここに文教民生委員会の報告を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。質疑を終結いたします。

## 討

## 論

○議長（吉田勇治郎君） これより討論に入ります。

通告がありますので、順次発言を許します。

一八番渡辺軍治郎君。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一八番（渡辺軍治郎君） まず、私は議案第十五号館山市立中学

校設置条例の一部を改正する条例の制定について反対の討論を行います。

この条例改正は、第三中学校建設と中学校の統合を行うためのものです。この問題については通告質問や議案審議で論議されてきました。市当局は中学校統合問題については四十一年ごろから考えられていたと言っていますが、その具体的な計画は私が議員になってから八年間にはありませんでした。第二中学校が防音校舎に改築される時点でも問題にならなかった。だから今回の統合で十教室も余る結果になった。また館山高校の敷地を県から払い下げを受ける時点でも、その利用計画は考えられていなかった。五十二年に初めて館山高校移転後の跡地に第三中学校を建設することと合わせて適正規模による中学校統合問題が文教民生委員会に報告されたものであります。

この経過が示すように、第三中学校の建設と中学校統合問題は館山高校の跡地が利用できるというのが動機になっています。私は第三中学校建設や適正規模の学校を否定しているわけではありませんが、館山高校の跡地利用については、館山市の将来の発展を展望した都市計画から見ると利用価値が非常に大きいということが多くの人が認めています。当面駐車場にという要望もあります。したがって第三中学校の建設用地は別のところに求める必要があります。それにもかかわらず館山高校跡地を利用したということは、都合のよい便宜主義と七中学校を四中学校に統合すれば学校経営の面からも負担が軽くなるという安上がりな合理化を目指したものとしか考えられません。

中学校統合について最大の問題は、遠距離通学をどうするかと

いうことですが、この問題は関係地域との話し合い、合意がなければ解決しません。ところが現在までの状況では地域の住民を対象にした説明会はすでに議案が決定した二月の段階で行われています。これでは形式的にやったとしか考えられません。しかも参加人員は百名程度と聞いています。関係地域の小、中学生は約千三百名、そのうち西岬地区は四百六十名ですが、ここでは説明会をやっています。統合を決定するのは関係地域の住民の意向にかかっているのに、通学バスや保護者の負担等重要な問題についての話し合いはこれからと言っています。このように地域住民の意向を確かめないで、なぜ学校建設を急がなければならぬのか、また議会で議決しなければならぬのか全くわかりません。

議案では第三中学校の建築のおわる五十五年四月一日に統合することになっていますが、西岬中学校は除外され一年後になっています。また第四中学校は五十五年四月一日以後で、神余中学校と豊房中学校だけが五十五年四月の統合になっています。中学統合問題は館山市を一円とした共通の問題であるのに、実施がばらばらで一貫性がありません。西岬は東小と西小の統合もからんで複雑になっています。このような状況の中でこの議案が議決されれば議会で決まったことだから協力しろという押しつけにならざるを得ません。

私は、中学校の統廃合について、住民の意向が不明確な中でこの議案を決定することには反対であります。また、通学については全額公費で負担するより要求し、議案第十五号館山市立中学校設置条例の一部改正について反対するものであります。

次に、議案第十六号館山市社会体育施設の設置及び管理に關す

る条例の一部を改正する条例の制定について反対の討論を行います。

この条例の一部改正は市民体育館の使用料を決めようとするものですが、内容は多くの細目にわたって料金が決められています。説明では他市にならって決めたと言っていますが、他市には他市の条件があり、それにならうということではあまりにも自主性がないのではないかと思います。館山市の場合は新規で学校関係との競合も考えられます。また利用状況もわかっていないのに使用料をこまかく決定するのは行き過ぎであると思います。

市民体育館は、市民を対象に社会体育の向上、発展を目指して広く市民に利用させるのが目的だとすれば、使用料で差別をするのは不当であります。地方自治法第十条では「住民は法律の定めるところにより、その属する普通地方公共団体の役務の提供を等しく受ける権利を有する。」と規定しています。

したがって、利用目的から見ても、使用料は特殊なものを除き無料にするより主張し、議案第十六号館山市社会体育施設の設置及び管理に關する条例の一部を改正する条例の制定に反対するものであります。

次に、私は議案第十七号児童家庭保育に關する条例を廃止する条例の制定について反対の討論を行います。

この条例の廃止の理由は、「千葉県家庭保育事業受託者助成要綱に基づいて市の要綱を制定し、今後の運営を図っていくため」と言っていますが、説明では、現在行っている受託者に対する報償金月額三千円を中止し、委託者に月額五千円の助成を行うということですが、現在行われている報償金は、保育料一万二千円に

対して補助的なものだと思います。保育料の額は実情に合わないとしても、安い保育料に対する助成としては意義があると思います。したがって、これを打ち切れば保育料を規制するものではなくなり、自由に保育料を決めることができます。県の要綱による助成は委託者に対する助成ですから、その分が保育料を引き上げることになる可能性は十分考えられます。したがって、委託者、受託者いずれを助成したらよいかはむずかしいところですが、保育料に一定の限界があれば委託者にとって負担が軽くなりますが、歯止めがなければ保育料が引き上げられることになります。市としては県の補助事業として有利であるという観点ですが、現行の保育料一万二千円が実情に合わなければそれが無視されて、ヤミ料金になるのは避けられないと思います。

したがって、保育料の基準を実情に合うように改め、報償金の額も引き上げ、条例の内容を充実させるほうが委託者にとっても有利であると思います。よって、議案第十七号児童家庭保育に関する条例の廃止に反対するものであります。

次は、議案第十八号国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について反対の討論を行います。

この条例改定は、第四条の被保険者について、朝鮮及び大韓民国の国籍を有する者は従来任意加入であったものを強制加入にしようとするのですが、日本に帰化していない者については、納税の義務は果たしていても日本国民と同じような諸権利が認められないという不平等な扱いを受けている現状からみて、条例は従来どおりが妥当で、改正する必要はないと思います。

次に、条例第六条中助産費についてですが、出産は病気でない

ので保険の適用から除外されているため高額な負担になっていきます。社会保険の関係からも八万円を三万円並みに十万円に改めるよう。また、第七条中葬祭費も三万円を三万円並みに五万円に改めるよう主張し、議案第十八号国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について反対するものであります。

○議長（吉田勇治郎君） 次、十五番辻田 実君。

（一五番議員辻田 実君登壇）

〇一五番（辻田 実君） 私は議案第十五号館山市立中学校設置条例の一部を改正する条例の制定について反対の討論をいたしたいと思います。

この条例改正につきましては、通告質問等におきましてかなりの論議がされてきたわけでございます。その中において、教育委員会のほうから義務教育というのは常に理想を追求しなければならないということ、同時に教育のより効果的な成果を得る行政を執行しなければならぬということが披瀝されておりました。この点については私どももいたしましても敬意を払うところでございます。

そして、今回の統合につきましては、市は主な理由として四つの条件が挙げられております。一つは適正規模——十八学級、八百人前後の学級数にすることが非常に大切であるということ。二番目には館山市の状況の中において農漁村におきましますところの児童の連帯感を強めるということでございます。三番目には今日の教育実態において教科担任の適正配置をしなければならぬということが指摘されたわけでございます。さらに四番目として施設の充実を図る。この以上の四点が当面する学校統合に対すると



ころの課題であり、これらの問題を満たすために昭和四十一年の学校統合審議会の答申を経て今日まで努力してきた結果が今回の統合案だということが述べられたわけでございます。

四十一年の学校統合審議会の答申につきましては、老朽校舎の解消と教師のアンバランスを解消することが緊急課題であるという前提に立ちまして、小、中学校の適正規模の追求と教育の理想を追求し、統合は慎重を期してやっていただきたい、こういうものが指摘されてきておるわけでございます。こういう観点に立っての統合につきましては私どもといたしましても全面的に賛成するものでございます。

しかし、今回のこの中学校設置条例によりましますところの統合案は、こうした理想とかなりかけ離れた中において行われていることを私は指摘したいわけでございます。

その反対理由として、私は次の五点がいま申したこれまでの教育委員会、また教育委員会と一体となってやってまいりましたわれわれ議会人として矛盾する面があるので反対したいわけでございます。

まず第一点は、館山第二中学校の建築をつい先だって完成されたわけでございます。この中においてこの統合問題が何ら触れられておられなかったということ。そして、第二中学校が完成と同時にこの学校の中を二つに分離していく。そして、多くの学級残を出すという、こういう結果を招くということでございます。これは当時議員として参加しておりましたわれわれ多数の議員は全く教育の理想と現実とかけ離れた議決をして第二中学校の防音校舎を設置するという汚点を残さざるを得ない結果を招くおそれが

あるからでございます。

第二点目には、房南中学校の問題でございます。先ほども申しましたが、適正規模の学級の必要性ということでございますけれども、房南中学校は適正規模ではございません。今回の統合によってさらに房南中学校は孤立せざるを得ません。教育の理想を追求する中においてこのようなことがあってはならないと私は思うのでございます。

第三番目には、西岬中学校の問題でございます。今議会において西岬中学校は統合計画に、また統合案の中に含まれておりながら一年間で廃校になるところの学校建設の予算を計上しておるということ。このことは常識的に見ても非常に矛盾する問題でございます。こうしたことが今日地方自治体の中でもって許されていいのかどうか。先ほどから申しましたように義務教育の理想そして統合審議会の答申、こうした理想を総論の中をもって強調しながら、こうした各論において西岬中学のような問題がはたして今日の中においてやられていいかというものについては、私は考えていかなければならないと思います。

第四番目には、館山高校の跡地は決して適地ではないということとでございます。説明欄においては、移動の動機は館山高校の跡地が適地であるということを指摘されておるわけでございます。私はしかしながらこの問題については二点について適地でないことを指摘したいわけでございます。

まず第一点は、北条小学校区内に第二中学校と第三中学校を設置しなければならないという条件はございません。このような例というのは千葉県下はおるか、全国的にもこうしたケースという

のは例外的でございます。こうした意味においては私はまず同一小学校区内において二校の中学校を設置するというものについては場所としては適地とは言えない。

第二点目には、この問題については、館山高校の移転については館山高校の跡地を中学校にするんだということは、館山高校の払い下げの時点においては明確にされておらなかった。と同時に、館山高校の移転先の現在建設予定地は、千葉県から「現在の館山高校は場所的にも適地じゃないので、もうちょっといい場所を見つけてもらえないか」という要請を受けて、館山市開発公社において現在の館山高校の土地を取得して、そして県に売り渡す、という経過であつたわけでございます。場所的にもっと慎重に取り組むならば、館山高校の現在の土地を見つけたように、どこの場所とは申し上げられませんが、もうちょっと全体的な統合計画の中において、場所的に、地理的に条件のいいところは見つかるはずでございます。この努力を私は執行部側は放棄しておるのではないかということを指摘せざるを得ないのでございます。

五番目に、この統合については、今日館山市のコミュニティ政策が強力に打ち出されておる中において、学校の統廃合というのはコミュニティ地区として非常に重要な役割を持つわけでございます。日本のコミュニティは学校を中心にして発達してきたといつても過言ではないということが学者の中の定説になっておるわけでございます。このような形の中において、一小学校区内に二校の中学校をもつということによって、地域コミュニティを破壊する危険があるということです。と同時に、この統合については住民との話し合い、議会との話し合いが不十分であつた

ことを指摘せざるを得ないのでございます。

以上の五点に立って、現段階におけるところの統合、そして三を館山高校の跡地につくるといふことは、教育の理想と現実との中から見て将来非常に構根を残すおそれもあり、現段階ではこの統合を打ち出すことは私は最適とは申せないといふふうに考える次第でございます。こうした面については総論において教育委員会が常に指摘しておりますところの教育の理想と教育のより効果的な成果を得るといふ理想に従って対処すべきであつて、目の先の便利主義といふふうな形の中でもって学校をつくつてみたり、そしてすぐ廃校してみたり、そしてまた完成と同時に分括してみたり、こういうことはやはり許される問題でなく、これは市政の教育の混乱を招くもの以外のなにものでもないと思つてございまして、この問題については教育の問題だけに慎重を期していただくことを要望いたしまして、反対討論にかえる次第でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論ございませんか。——討論なしと認めます。よつて討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

採決は分括して行います。

まず、議案第十五号館山市立中学校設置条例の一部を改正する条例の制定についてを起立により採決いたします。

本案についての委員長報告は原案可決であります。本案を委員



長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(吉田勇治郎君) 起立多数であります。よって議案第十五号館山市立中学校設置条例の一部を改正する条例の制定については原案のとおり可決されました。

次いで、議案第十六号館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。本案を委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(吉田勇治郎君) 起立多数であります。よって議案第十六号館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定については原案どおり可決されました。

次いで、議案第十七号館山市児童家庭保育に関する条例を廃止する条例の制定についてを起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(吉田勇治郎君) 起立多数であります。よって議案第十七号館山市児童家庭保育に関する条例を廃止する条例の制定については原案どおり可決されました。

次いで、議案第十八号館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定についてを起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。本案を委

員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(吉田勇治郎君) 起立多数であります。よって議案第十八号館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定については原案どおり可決されました。

次いで、議案第十九号館山市公害防止条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第二十四号昭和五十三年度館山市国民健康保険特別会計補正予算を一括して採決いたします。

議案第十九号及び議案第二十四号についての委員長の報告は原案可決であります。議案第十九号及び議案第二十四号の各議案を委員長の報告どおり可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって議案第十九号及び議案第二十四号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第三、議案第二十号乃至議案第二十二号及び議案第二十五号の各議案を一括して議題といたします。

議案第二十号 館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十一号 館山市水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十二号 市道路線の認定について

議案第二十五号 昭和五十三年度館山市水道事業特別会計補正

予算（第三号）

建設経済委員会委員長報告

○議長（吉田勇治郎君） たいま議題となりました各議案は、去る三月九日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長 荒山源次郎君。

（建設経済委員会委員長 荒山源次郎君登壇）（拍手）

○建設経済委員会委員長（荒山源次郎君） 三月九日開会の本会議において建設経済委員会に付託されました議案第二十号乃至議案第二十二号及び議案第二十五号につきましては、三月十五日午後一時委員会を招集いたしまして、各案件について慎重審議の結果、全員一致原案どおり可決すべきものと決しました。

以下、審査の結果並びに経過について御報告申し上げます。

まず、議案第二十号 館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についての審議経過は次のとおりであります。

入居についての収入の限度額及び変更はあったのかとの問いにつき、収入限度額については変更になっていない、第二種の場合扶養親族ゼロで年間百六万四千円以下、一人の場合百三十四万九千九百九十九円、三人で二百四万九千九百九十九円である旨の回答あり。現在工事進行中の那古市営住宅への入居希望者の状況を尋ねたところ、身障者住宅で二名超過、一般住宅八戸に対し三十名

以上の申し込みがあったとの回答に対し、身障者入居者資格は世帯主だけでなく扶養親族が身障者である場合も含まれるかとの問いに対し、含まれるの回答有り、全員原案可決に賛成いたしました。

次に、議案第二十一号 館山市水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたしました。真倉の戸倉地区は希望があれば加入できるかとの問いに対し、戸倉地区は給水地域に入っているので、申し込みあればいつでも加入できるとのことでした。更に地域的に希望があるので、今回の改正で給水区域に含まれてないところはあるかと問いましたところ、九重、国分で希望があると承っている。高井地区については希望のあることは承っているが、三芳水道企業団の給水区域であるため加えなかったとの答弁あり。一部の地域で市営水道と三芳企業団の水道の管をドッキングして水道を引いてもらいたいという要望のあることをお含み願いたいと要望し、全員原案可決に賛成いたしました。

さらに、議案第二十二号 市道路線の認定についてですが、議案に関連して生活関連道路の整備について全市的に対処してもらいたいとの要望あり、市当局も善処するとの回答あり、全員原案に賛成いたしました。

議案第二十五号 昭和五十三年度館山市水道事業特別会計補正予算については全員原案に賛成いたしました。

以上、審査の概要を御報告申し上げますが、いずれも原案どおり可決すべきものとの結論に達しましたので、ここに建設経済委員会委員長報告といたしました。何とぞ満場の御賛同を賜りま

すよりお願い申し上げます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。

通告はありませんでしたが、討論ございませんか。——討論なしと認めます。討論を終結いたします。

### 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

議案第二十号乃至議案第二十二号及び議案第二十五号についての委員長の報告は原案可決であります。各議案を委員長報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって議案第二十号乃至議案第二十二号及び議案第二十五号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

### 議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第四、議案第一号乃至議案第七号昭和五十四年度一般会計並びに特別会計予算を一括して議題といたします。

議案第一号 昭和五十四年度館山市一般会計予算  
議案第二号 昭和五十四年度館山市国民健康保険特別会計予算

議案第三号 昭和五十四年度館山市と畜場特別会計予算

議案第四号 昭和五十四年度館山市国民宿舍特別会計予算

議案第五号 昭和五十四年度館山市ユースホステル特別会計予算

議案第六号 昭和五十四年度館山市学童災害共済事業特別会計予算

議案第七号 昭和五十四年度館山市水道事業特別会計予算

### 予 算 審 査 特 別 委 員 会 委 員 長 報 告

○議長（吉田勇治郎君） ただいま議題となりました各会計予算は去る三月十二日の会議で特別委員会を設置し付託されたものであります。

よって、これより各会計予算に対する予算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

予算審査特別委員会委員長菊井敏博君。

（予算審査特別委員会委員長菊井敏博君登壇）

○予算審査特別委員会委員長（菊井敏博君） 議案第一号乃至議案第七号昭和五十四年度館山市一般会計及び特別会計予算にかかる予算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る十二日開会の本会議におきまして設置されました本委員会を十九日招集いたし、各会計における予算について慎重に審査を行いました。

以下、委員会における質疑応答等整理し、審査の概要について御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出、総務費防災対策費中、耐震性井戸貯水装置設置工事請負費が計上されておりありますが、この内容について説明を求めましたところ、防災対策の一環として特に地震対策を重視し、補水用の井戸、浄水機を備えた耐震性の四十立米の貯水槽を設置するもので、設置場所については市街地周辺を予定しているとの説明がありましたが、さらに市内に点在する共同井戸についても利用できないか実情を調査、検討され、災害時に備えるよう要望いたしました。

次に、民生費中、福祉作業所建設工事請負費が計上され、その施設の概要については予算説明資料に記載されておりありますが、さらに詳細に説明を求めましたところ、対象人員については二十人未満ということで予定し、入所者については重度の障害者は無理と考えており、市で認定したい。また設置場所については、湊の旧開成寮を考えているが、現在人居者がいるので今後の経過を見ながら検討し、本年の十月ごろには開設したい旨の説明がありました。

次に、青少年関係各種事業の実施主体の一元化については、本会議等においても論議されておるところであり、市においても前向きに検討が加えられてきておりますが、さらに予算の計上にあっても一元化できないかについて伺ったところ、予算については性質別、目的別に計上することがたてまえてあることから分散されているが、今後執行にあたって横の連絡を密にして推進していく旨の回答がありました。

次に、衛生費じん芥処理費中、建物等修繕料、備品等修繕料が計上されておりますが、現施設は老朽化しており、また地区住民と

移転時期について協定がなされていることから、建設にあつての今後の考え方について説明を求めましたところ、正本地区との話し合いでは本年九月までに移転することだったが実現できない状況にあり、本年九月までに用地の確保をするということと了解を願っている。また現状において出野尾地区に予定しているし尿処理場との併設は不可能な状況にあり、新たな候補地を早急に選定したいとの考えが示されましたが、本委員会としてもこれが早期解決に努力されるよう強く要望いたしました。

次に、衛生センターのし尿処理施設については、予算説明資料に方式が明記され、契約も随意契約が前提となっているように思われるが、このように記載することについてはどうか質問したところ、会社、方式については全員協議会等において報告しているところであり、厚生省の許可申請、補助金の申請にあたり方式を決定しなければならぬという事務手続上の問題があるのでこのように措置した。また会社によって方式が異なるため設計を示しての競争入札は困難性があり、なお契約にあたっては補助内示のあった時点で改めて議会へ提案するとの回答がありました。

次に、農林水産業費中、農地移動適正化あっせん員報償金、紛争仲介あっせん員報償金が計上されておりますが、これが状況については、移動適正化あっせんについて年間二十三件、紛争仲介については境界紛争、排水問題、公害問題等で大体年間四、五件であり、処理にあたる委員は延べ十五人から二十人程度を考えているとの説明がありました。

次に、地域農政推進員報償金、地域農政集落別概要調査委託料について合わせて説明を求めたところ、今後の市における営農指

向、生産の組織化、土地利用の進め方、融資事業の導入等、農家の意向を集落ごとにアンケート調査を行い、地域農政の総合的な推進方策を作成するもので、その調査を依頼する報償金と、その調査結果の集計を農協に委託するための委託料であるとの説明がございました。

次に、観光費中、北条海岸のヤシ並木については館山の観光拠点の一つであり、その管理については努力されてきておるところであります。その後の管理状況と今後の考え方について質問したところ、管理については施肥、灌水、防除等について今年度さらに委託しようとするもので、昨年度実施した砂の除去については深植えの解消につながり好影響をもたらすものと考えている。なお砂除去については今年度残りの部分である海幸苑の下まで実施するとともに、灌水の水道施設も設置する考えであり、補植についても十分検討していきたいとの答えがありました。

さらに、関連して養蚕事業については、県による調査が継続して行われているが、調査結果に基づいて地元養蚕会の意向等も十分聞いて進めていく考え方が示されました。

次に、土木費中、道路台帳作成委託料が計上されておりますが道路法に基づく道路台帳整備は初めてであり、これが内容について説明を求めましたところ、各市町村において図面関係の未整備なところが多く、この整備方について国、県を通じて指導されており、今回その第一段階として公図をもとに延長、幅員等調査して整備をするもので、一キロメートル当たり四万円で予算計上したとの説明がなされました。特に本市においては、二十九年の合併により旧市内の道路と旧村関係の道路が同じ路線でも別々の名

称がついている状況等もあり、この際合わせて再検討するとの考えが示されました。

次に、都市計画費中、緑のマスタープラン解析委託料が計上されておりますが、その内容について説明を求めたところ、五十三年度実施の都市計画法に基づく県の基礎調査をもとに、フリーム解析、環境保全解析、レクリエーション解析、防災解析、調査結果に基づく総合解析、都市形態と緑地パターン解析等それぞれ解析評価を県の補助を得て専門業者に委託するもので、緑のマスタープラン策定の資料にするものであるとの説明がありました。

次に、教育費中、中学校統合と西岬中の建設についてありますが、東小と西小の統合を前提として一年しか人らない西岬中を建築するのは問題があるのではないかと、東小を防音校舎として建築する方策はとれなかったのかとの質問に對しまして、小学校を建築すればあるいはスムーズだったかもしれないが、小学校の建築については事務的な面もあったし、地元から中学校を先にという要望もあったので西岬中学校を建築するものであるとの回答を得ました。

なお、建築後の西岬中を統合小学校とすることについては、環境の整備、特に通学路の整備をいまから検討し、遺憾なきを期せられるようとの強い要望がありました。

また、中学校統合による過疎地域からの生徒の通学問題、非行化防止については万全の措置を講じ、真に統合の実を上げるよう要望いたしました。

次に、市制四十周年記念行事としてオペラ公演が計画されておりますが、市内のオペラ愛好者の状況、実施の具体的内容につい



て、さらに関連して市制四十周年記念行事に対する取り組みについてただしましたところ、クラシックの愛好者は大体人口の五%といわれておるが、オペラ公演については市民の要望にこたえらるとともに音楽教育という見地から実施するものであり、今回の公演については四百六十万の経費で、市から二百五十万円を支出し、残りを入場料をもって充当したいと考えており、千百名を予定しているとの回答がありました。

また、市制四十周年記念行事に対する取り組みについては、組織的なものについては年度に入ってから考えたいが、当面臨時的なものについては市長公室が担当し、個々についてはそれぞれ担当分野で検討し、市民の参加を呼びかける。なお新年度に開かれる全市民を対象とした各種大会は、できるだけ市制施行四十周年記念大会とするよう考えて対処しているとの答弁がありました。市民の意見を十分反映して実施されるよう要望いたしました。

次に、歳入につきましては、歳入欠陥が行政執行に多大な影響を及ぼすことにかんがみ、前年度当初予算と対比しながら地方譲与税、使用料、財産収入等について詳細に積算の根拠をただし、今後減額補正等のなされることのないよう要望いたしました。

次に、国民健康保険特別会計であります。年々増高している保険給付費について運用上検討が加えられないかとの質問に対し、本年度保険給付費については医療費の改定五%が見込まれており、さらに医療技術の進歩による自然増が一〇%から一二%程度あることから、前年度当初予算対比では二六・七七%、決算見込みに対しては一七・三八%の増額計上を積算せざるを得ないとの回答がありました。

次に、と畜場については、年々使用料が減額している状況があるが、市にとって必要な施設であり、以前から広域的施設ということで論議されておることでもあるので、今後その線に沿って十分検討されるよう要望いたしました。

次に、国民宿舎、ユースホステルについても質疑があり、特に国民宿舎については本年度全面改築がなされ、完成が期待されているところであり、今後さらに売店経営等経営努力を重ね、所期の目的を達せられるよう要望いたしました。

以上、審査の概要を申し上げましたが、特に長年の懸案であった衛生センターの建設、中学校統合等、半澤市政が二期目を迎えて積極的に市民福祉の向上に対処されているものと認めるものがあります。

ここに、本委員会は、付託を受けました議案第一号一般会計予算については賛成多数をもって、議案第二号乃至議案第七号の各特別会計予算については全員一致をもって、いずれも原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、予算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果につき御報告申し上げますが、満場の御賛同を賜りますようお願いいたします。委員長報告を終ります。(拍手)

議長(吉田勇治郎君) 以上で委員長の報告を終ります。

ただいまの委員長報告につき御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。質疑を終結いたします。

討

論

〇議長（吉田勇治郎君） これより討論に入ります。

通告がありますので、順次発言を許します。

一八番議員渡辺軍治郎君。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

〇一八番（渡辺軍治郎君） 私は、議案第一号昭和五十四年度館山市一般会計予算に反対する討論を行います。

この予算は、歳入歳出とも総額八十億二千三百八十七万六千円で前年度より十八億八千六百二十六万六千円多い三〇・七%の伸張率になっています。

歳出の主なものは、普通事業費の二十七億八千七百万円で、その内容はし尿処理場、学校等の建築費であります。その財源は補助金と市債によるものですが、今年度予算の特徴は市債が前年度の二・一七倍、債務負担行為四億五千四百八十五万円を合わせる。と借入金の前年度の約三倍になります。五十年から市債は八・六倍となり、その残高は四十二億三千七百万円に達し、公債費も五億円を超えております。このように五十四年度予算は借入金の増大による膨張財政になっていることとあります。この借入金の負担は市民に転嫁され、市民生活を圧迫するもので、市長の言う健全財政を基調として予算編成したなどとは言えるものではありません。

このような財政事情の中で、急いで建設する必要のない第三中学校の建築費が七億八千三百二十七万一千円見込まれております。この建築費は中学校の統合問題とからんでいます。急がなければならぬ根拠はありません。しかも新築だから防音校舎にできないという——ヘリコプターの騒音公害に新築も改築もないと思

いますが、了解できません。

次に、予算の内容についてですが、歳入に寄付金千四百十九万八千円が計上されています。この中には消防の寄付金四百六十八万九千円、道路舗装の寄付金二百万円があります。いずれも公費で負担すべきものであります。市長は自発的な意志に基づくものだと言っていますが、町内会等を通じて協力を求めるという半強制的なものです。このような不正の税外負担は中止するよう要求します。

次に、給料についてですが、市長は従来の慣習を破って新たに三等級昇格試験を実施しようとしています。その理由として人事考課の基準の資料とか、人材を掘り起こすためと言っています。十二日の答弁では三等級有資格者全員の昇級はしないと書いてありますが、したがって昇格試験の目的は、試験によって職員を差別するものだということです。八年前に、このように非民主的な人事行政では点取りが重視され、職場に对立、不安をつくり出し、市民サービスや事務能率を低下させることになりました。よって三等級昇格試験を取りやめるよう主張します。

次に、行政委託料八百四十八万六千円についてですが、これは町内会長に行政委託ということで支出されているものですが、民主的、自主的組織である町内会が上意下達の機関化され、寄付金集めやごみ収集料金の徴収までやらされています。このような民主主義に反する行政は改めるよう要求します。

同時に、いま行政サイドで進められている地域的コミュニティ組織も民主的に行われるよう要望するものであります。

次に、社会福祉についてですが、民生費は前年度より二〇%の増になっていますが、身障者住宅や福祉作業所の建設など積極面は評価できますが、他はほとんど国の制度に依存しています。

寝たきり老人のために移動入浴車の配置、幼児保育の拡充、保育料の軽減など老人福祉、児童福祉に積極的に取り組むよう主張します。

次は、住みよい環境づくりについてですが、ごみ収集手数料は県下二十六市のうち二十市が無料です。市長は利益を受ける者が負担するのは当然だといっていますが、地方自治法、地方財政法で規定している受益者負担の原則は少数者の利益に対するもので、市固有の事務である公共的なものにまで受益者負担を拡大するのは誤りで正しくありません。ごみ収集料金は無料にするよう要求します。

次に、道路新設改良費は、前年度より六千四百二十八千円、減少しています。これは公社の委託分がなくなったためと言っていますが、生活道路の拡充や排水路の整備は不十分であります。都市計画の展望に立って計画的に進める必要があります。計画されている館山バイパス路線は、住みよい環境を破壊するばかりか、館山市発展の障害になるもので再検討を要求します。

次に、館山高校の跡地は、中央公園とならんで利用価値の高い重要な地域であります。ここに第三中学校の建設をしようとしています。これは無謀であると思います。市民からの要望の強い中央公民館、体育館、その他文化の中心として利用するよう、都市計画の展望に立って検討するよう要求します。さしあたり市民の要望の強い市営の駐車場を開設するよう主張します。

なお、生活道路にのせた館山バイパス路線の設定にしても、館山高校跡地に第三中学校の建設を設定したのも、発想は便宜主義的な安上がり行政の典型であります。このような発想は改めるよう主張します。

次に、産業の振興についてですが、農林水産業費を見てもほとんど進展は見られません。水産振興費は前年度より二千二百四十八万四千円減少しています。館山市の発展は農業、漁業、観光の振興にかかっているのにいずれも不安定な状態に置かれています。米の生産制限、水田再利用計画など困難な状況にあります。したがって農産物の価格を安定させることが重要になっています。主要な農産物については国が価額保証制度をつくるよう主張します。同時に館山市の特産物については、市独自で価額保証制度をつくるよう要求します。

市長は、館山市だけではできないと言っていますが、農協や生産者、仲買業者などの協力で、市の助成による基金制度は可能だと思います。

また、水産資源の開発は、全く不十分であります。アワビ、サザエ、トコブシ、海藻類など種苗放流の拡充に積極的に取り組み、観光とつり合いのとれた産業の発展に努力するよう主張します。

次に、教育環境づくりについてですが、中学校建設費に六億二千九百三十五万二千円計上されていますが、これは西岬中学校と第三中学校の建築費についてですが、第三中学校は統合問題とからんで館山高校の跡地に建築することを急いでいます。館山高校の跡地は市の中心地域で利用価値の高いことは周知のとおりですが、教育環境という点から見ても学校は市街の中心から離れた地



域に建設する必要があると思います。

また、中学校の統合問題にしても、適正規模という必要性は認めますが、今日まで小規模、中規模の学校が存在してきたことはそれぞれ地域的、歴史的條件によるもので、学校、家庭、教師、生徒との密接な触れ合いを通じてそれなりのよさがあります。最近詰め込み主義の教育についていけない児童の自殺、非行化が問題になっているとき、適正規模だけが万能ではないのではないかと小規模の学校に対しては教師を増員し、行き届いた教育を行うことが国民の教育権に対応する行政の責任であり、義務であると思います。したがって、地域の条件を無視した機械的な学校の統廃合には賛成できません。

以上、五十四年度予算は冒頭に指摘したように不健全な借金財政による膨張予算であること、その中で市長の言う重点施策は中身の無いこと、予算全体を流れる基調は便宜的な安上がり行政、住民の意向を無視した非民主的な官僚主義、これが特徴であります。

私は、このような半澤市長の施政方針に抗議し、昭和五十四年度館山市一般会計予算に反対するものであります。

次に、私は議案第二号昭和五十四年度館山市国民健康保険特別会計予算に反対の討論を行います。

この予算は、保険給付費との関係で保険税を一世帯当たり八万五千五百五十八円、前年対比二七・八％、一人当たり平均三万三百七十四円、前年対比三二・五％に決定しようとするものですが大幅な値上げになっています。保険会計では保険給付費が多くなれば保険税も上がるようになりますが、五十三年度と五十四年度

を比較しますと五十三年度の保険給付費の増加率は二一・八％、保険税の増加率は二二・六％、五十四年度の保険給付費の増加率は二六％、これに対して保険税の増加率は三二・六％と大幅に上回っています。積算上に問題があるのではないかと思われますがいずれにしても家庭に重い負担になっております。保険税の値上げについて市民は大きな不満を持っております。不況、物価高の中で市民生活を一層圧迫する保険税は一般会計からの繰り入れによって軽減するよう主張します。

保険会計の経費の中には、医療に関係のない助産費、葬祭費、育児費、事務費の超過負担、納税費など六千万円もあります。この分については一般会計から繰り入れする根拠があります。県下二十六市のうち十四市が繰り入れを行っております。市長は繰り入れについて他の保険との関係でできないと言っていますが、被保険者加入率二一・七％の習志野市では一億円の繰り入れをしています。館山市の加入率は四四・九％で習志野市の二倍になっています。八千代市は加入率二四％であるのに六千七百万円の繰り入れをしています。

抜本的には、国の負担金、補助金の増額、不公正な保険税の上限を撤廃するなどの改善を要求し、議案第二号国民健康保険特別会計予算に反対するものであります。

議長（吉田勇治郎君） 次、一五番辻田 実君。

（一五番議員辻田 実君登壇）

〇一五番（辻田 実君） 議案第一号昭和五十四年度館山市一般会計予算案についてのみの反対討論をいたしたいと思います。

公選制によって直接選ばれたところの市長並びに議員の対立が

あることは、今日の行政体制からいってあまり好ましくないものであると思います。しかしながら、現実的には館山市の議会におきましても、国会におきますように議院内閣制のもとではどうしても予算並びに議案については野党が反対するということは当然であって、そうしたことが館山市議会にも波及されてきておることについて私はあまり好むものではありません。

この原因は、一つは市長自身が中央集権化の行政にあまりにも即応する、対応し過ぎておるといふ面が一点にあるかと思わわけでございます。二番目には議員の政党化によって中央政治のこうした問題がやはり地方議会の中にも流れてきておる、こういう結果がこのようなっておるんではないかと思ひます。

私は、これまで予算案に対しては市民的立場に立って作成され、そしてそういう立場から討論されてきておりますので、十何回かの予算にあたりましてこれまで二度ないし三度程度反対したわけでございますけれども、今回、私は今議会で再立候補いたしませんが、大体最後の議会になろうかと思ひますけれども、そうした中において予算案について反対することは情において忍びないものがございしますが、しかしながら市民の代表として民主政治を守るという立場からどうしても反対いたさなければならなかったわけでございまして、そういう点については今後の市政運営の中で、十分反映していただきたいと思います。

反対の理由は二点でございます。

先ほどの議案の中で討論されておりますけれども、不十分な形の中でもって統合計画が決定されて、そうした中において三中の膨大な建設予算が組まれておる。このことについては、やはり私

は納得できないわけでございます。と同時に、三中と絡んで西岬中学の建設費が計上されておる。このように完全に相反する、相矛盾する予算案が提案されるということについては、私は黙認することはできない。このことはやはり教育の理想とやはり納得のいく行政という立場からの議会の威信、權威、というもののから考えて私は今回の予算についてこの点がどうしても妥協できませんので反対いたしたいと思うわけでございます。

他の項目につきましては、今回の予算につきましては、従来半澤市長は市長に就任以来行政の合理化と緊縮財政を施行してきたわけでございますけれども、今回の財政につきましては積極財政の転換をみたということについては私は歓迎をいたしたいと思ひわけでございます。

特に、この中でもって衛生センタの建設、健康教育モデル地区への予算化、さらには学校の整備費の充実、市民運動場の整備、土木予算の増加等を見ておられることについては、今後ともこうした予算の強化に一層努力していただきたいというふうに考えております。

しかしながら、私は次の五点について私の所見を申し述べて、今後の予算の執行について円滑な運営を図っていただきたいと思います。

一つは、今回の予算につきまして起債による事業が非常に多く見受けられます。このことは国の景気浮揚対策の一環として予算化されておるといふことであるならば、この起債については将来館山市については大きな財政負担を招くことになるかと危惧されるわけでございまして、この点については、起債の運用について

は市民的な立場において運用していただきますことを私は申し述べたいと思います。

二番目には、衛生センターの建設で特定メーカーの機種に限定して予算化されておることです。こうしたところの施設は非常に長期的にわたって運営されるものでございます。したがって今回特殊な事情の機種でございしますから、自治法第二百三十四条の本文の、競争入札の精神が十分生かされておられんけれども、この点については将来この機種について間違ひはなからうと思ひますけれども、こうした形のものについては特殊であるということにおいてこのような膨大な経費を投入することについては若干の心配される面がありますので、この完成についてはメーカーとも慎重な協議の上、衛生センターの完成、運用について支障のないように留意をしていただきたいというふうに思ひ合わせてございます。

三番目には、先ほど来申し上げておりますように、市長は館山市の財政が高度成長の中においてかなり福祉面等について膨張したことにについて、これらの財政の建て直しということについて経費の節減と人件費の抑制に努力されてきたわけでございます。この点については私はこれまで何回か行き過ぎないよう指摘してきたところでございまして、今日どうやらこうした財政状況にあることは非常に喜ばしいことだというふうに思ひ合わせてあります。

しかし、今回市長車の購入をいたしたわけでございます。この点については昨年の市議会の車を買ったわけでございますけれども、この車の値段からいって倍くらいする高級車を購入したということ、市議会と市長とのバランスを崩しているということが第一

点。二番目には、いままではあった車がプレジデントであるということ、したがってそのプレジデントを購入するというところでございすけれども、これは相当高級車でございます。市長は一面において経費の節減、人件費の抑制をいたしまして従来の職員並びに市に對するところの既得権は合理化しておるけれども、しかしながら市長自身の乗用車になりますと従来の既得権を主張して従来この車であつたからこの車を買ふというふうな形で、今回このような車を市長自身が購入するということについては、市の職員に對するところの士氣並びに市民に對して経費抑制を主張してきた市長としてその時宜を得ておらないというふうに判断するわけでございます。こうした点についてはやはりもう少し議會並びに住民を中心としたところの話し合いと一定のバランスというものを考えながら措置しなければならぬ。私は高級車を市長が乗ることについて何らこの点について差しはさむものではございませんけれども、いま言つたような状況の中では適切じゃない。今後この問題をめぐって若干の行政上の摩擦を起すことも懸念されるわけでございまして、こうした点についてはやはりもう少し市政に對して裸でぶつかつて、ほかの市長が高級車に乗っているからその手前もということもあるかもしれないけれども、市の職員並びに市民とともにあたるといふことが必要じゃないかという面を考えまして、この問題については十分考慮して運用されることを私は切望する次第でございします。

第四番目としては、市制四十周年の行事でございします。この点について市制四十周年を記念することは私は結構なことだろうというふうに思ひ合わせてございます。しかしながら記念行事に對す

るところの幾つかの予算が市の中から一方的に提起されて、予算化されている面について、私は今後この種の市制四十周年というのは、館山市民があつての四十周年でございするから、もう少し市民的な立場から市民的な要望を聞く中において四十周年記念事業並びに行事、こういうものを選定する必要があつたかと思ひます。

特に、半澤市長は非常に幼少のころから優秀で、学校の成績も抜群であられたようでございますので、やもすると欠陥として物事の先がよく見える、見えることによつて、他の人の意見をくみ入れる点について非常におろそかになるというのが優秀な人間の持つ側面としての欠陥があるわけでございまして、こうした面については本人自身としてはなかなか反省の機会はなからうかと思ひますけれども、この四十周年のオペラについては非常に文化的な香りのするよいものでございますので、これを選定するにはやはり市民的な立場の討論から生み出す、結果は同じであろうが自分自身は先が見えても、それを先取りして押し付けていくという形が生まれてくると、せっかくのこうした立派な芸術、文化もその成果の面においては一方的な方向ということで摩擦を招く懸念があると思ひまして、予算執行にあつてはそうした観点について十分な配慮をしていただきたいというふうに思うわけでございます。

最後に、減反政策が館山市の中でもって進められておるわけでございますが、私は十六年前に市議会議員に当選してまず第一の質問は農業に対するところの基盤整備並びに農村におきますところの農民層の分解、これに対して館山市は抜本的な対策を立てな

ければならないということでもって、この問題から取り組んだわけでございますけれども、はからずも最後の議会になりましてこの問題を取り上げるわけでございます。

この館山市におきますところの米作農業、これは最も大切なものであり、将来この米の問題の扱いいかんによつては国民の存亡にもかかわることでございます。食糧問題、エネルギー問題、教育問題、こういうものはやはり超党派で国民的立場でもって考えなければならぬところでございまして、今日の中央政治の矛盾の中において減反政策をしなければならぬということについては私は残念であります。そのことについて館山市が云々ということとは私は申しませんけれども、しかしながら現実には多くの田畑を転換しているわけでございます。その転換した田畑に対するところの転換予算、転換事業が今年度予算においてはまだ不十分である。そして転換するということは同時に館山の地域性から見て農業が米作以上により多くの所得と農業成果を収めるということが前提にならなければ私は大変なことになるかと思ひわけでございます。

そうした面におきますところの予算措置というものが不十分に見えるようでございますし、本日もまいりました館山市の統計資料等見ますと農業所得が——このことが直接の原因でないにしろ低下しておる、割合が下がってきておる、このことは館山市の将来について非常に残念なことであろうと思ひわけでございまして、今度少ない予算の中において転換事業を推進しようとしているわけでございますけれども、この転換推進事業をより効果的に運用し、さらには来年の予算等についてはもっと抜本的な農業対策

を立てられることを私は要望いたします。

以上、五点について今年度の予算に対する所見を申し述べ、次第でございます。

終りにあたりまして、今後館山市政に対して、半澤市長を中心にしましてよりよい民主的な市政の実現が期せられますことを祈念いたしまして、最後の討論にいたしたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で通告者による討論を終わります。通告をしない議員で討論ございませんか。——討論なしと認めます。討論を終わります。

## 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決を行います。

採決にあたりましては、一括して採決いたします。

まず、議案第一号昭和五十四年度一般会計予算について起立により採決いたします。

議案第一号についての委員長報告は原案可決であります。本案を委員長の報告どおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

### （賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって議案第一号昭和五十四年度一般会計予算は原案どおり可決されました。

次いで、議案第二号国民健康保険特別会計予算について起立により採決いたします。

議案第二号についての委員長報告は原案可決であります。本案を委員長の報告どおり決することに賛成の諸君の起立を求めま

す。

### （賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって議案第二号国民健康保険特別会計予算は原案どおり可決されました。

次いで、議案第三号乃至議案第七号の各特別会計予算を一括して採決いたします。

議案第三号乃至議案第七号の各特別会計予算についての委員長報告は原案可決であります。各特別会計予算を委員長の報告どおり決することに御異議ございませんか。

### （「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって議案第三号乃至議案第七号の各特別会計予算はいずれも原案どおり可決されました。

## 議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第五、議案第二十六号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を求めます。

### （書記朗読）

議案第二十六号 館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について

## 議 案 の 内 容 説 明

○議長（吉田勇治郎君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 固定資産評価審査委員会委員は現在三名でございすが、その一名の伊藤輝夫君の任期がこの三月三十一日をもって任期満了となるわけでございます。同君は同委員として連任であると信じますので、引き続き再任をいたしたいと存じますので、皆様方の御賛同を得たいと思うわけでございます。

○議長（吉田勇治郎君） 説明は終りました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本案については委員会付託並びに討論を省略、直ちに採決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

### 採決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件は、これに同意することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本件はこれについて同意することに決しました。

### 日程の追加

○議長（吉田勇治郎君） この際お諮りいたします。

総務委員会において継続審査中の請願第二号一般消費税に関する請願書について、請願人代表者より撤回したい旨の申し出がありました。

この際、請願第二号撤回の件を日程に追加し、議題とすることに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よってこの際請願第二号撤回の件を日程に追加し、議題とすることに決しました。

### 請願書の撤回

○議長（吉田勇治郎君） 請願第二号一般消費税に関する請願書撤回の件を議題といたします。

お諮りいたします。ただいま議題となりました請願第二号撤回の件については、これを承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって請願第二号撤回の件についてはこれを承認することに決しました。

### 日程の追加

○議長（吉田勇治郎君） この際申し上げます。

本間昭二君から議員の辞職願いが提出されております。

この際、本間昭二君の議員辞職の件を日程に追加し、議題とすることに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）



○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よってこの際本  
間昭二君の議員辞職の件を日程に追加し、議題といたします。

### 本間昭二君の議員辞職について

○議長（吉田勇治郎君） 本件については本間昭二君の一身上に關  
する事件でありますので、地方自治法第百十七条の規定により本間  
昭二君の退席を求めます。

### （七番議員本間昭二君退席）

○議長（吉田勇治郎君） まず、その辞職願いを書記をして朗読い  
たさせます。

### （書記朗読）

○議長（吉田勇治郎君） お読みいたします。

本間昭二君の議員の辞職を許可することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本間昭二  
君の議員の辞職を許可することに決しました。

### 本間昭二君のあいさつ

○議長（吉田勇治郎君） この際、本間昭二君から発言の申し出が  
あります。暫時これを許します。

（本間昭二君入場、登壇）（拍手）

○本間昭二君 ただいま私の辞職に關しまして皆さんの御賛同を得  
まして、まことにありがとうございます。

市政に参画しまして約四年間、議員の生活を、職務を全うでき  
ましたことは、議長はじめ先賢議員、同僚議員の御支援のたまも

のと心から感謝申し上げます。

また、市長をはじめ市関係機関の方々並びに部長、課長、職員  
の方々が私に寄せられた御厚情に対しまして、また適切なる御指  
導に対しまして心から感謝申し上げます。

辞職後におきましても、いままで私に寄せられました御厚情を  
今後ともより一層お願い申し上げますとともに、御期待申し上げま  
して、簡単ではございますけれども、お礼の言葉といたします。  
どうもありがとうございます。（拍手）

閉

会 午後零時三十分閉会

○議長（吉田勇治郎君） 以上で本定例会に付議されました案件は  
すべて議了されました。よってこれにて第一回市議会定例会を閉  
会いたします。

○本日の会議に付した事件

一、議案第一号乃至議案第二十六号

一、日程追加・請願書の撤回

一、日程追加・本間昭二君の議員辞職について

地方自治法第二百三十三條第二項の規定により署名する。

館山市議会議員

吉

田

勇治郎

館山市議会副議長

西

村

真

次

館山市議会議員

辻

田

実

館山市議会議員

安

西

益

男



